

檜山の概況

2024



姥神大神宮渡御祭／江差町



夷王山神社／上ノ国町



縁桂／乙部町



認定こども園「はぜる」／厚沢部町



HOKKAIDO
のんびり やさしい
山
HIYAMA



賽の河原／奥尻町



ピリカキャンプ場／今金町



立象山パノラマ線／せたな町

目次	・ ・ ・ 1	檜山の福祉	・ ・ 15
檜山のあゆみ	・ 1 ~ 2	檜山の保健医療	・ ・ 17
檜山のすがた	・ ・ ・ 3	檜山の環境	・ ・ 19
檜山の農業	・ ・ ・ 5	檜山のゼロカーボン	・ ・ 20
檜山の林業	・ ・ ・ 7	檜山の交通安全	・ ・ 21
檜山の水産業	・ ・ ・ 9	檜山の自然環境	・ ・ 22
檜山の商工業・観光	・ ・ 11	檜山の防災・消防	・ ・ 23
檜山の教育・文化	・ ・ 13	檜山の交通・運輸	・ ・ 24
		檜山管内7町の紹介	・ ・ 26



巖島神社鳥居と瓶子岩
(江差町)



夜明けの塔
(上ノ国町)



親子熊岩
(せたな町)

檜山地域の和人による本格的な開発は、1189年に源頼朝が奥州を制覇した際に、藤原泰衡の一族が本道に逃れてきたのを機に始まったとされ、道内でも極めて古い歴史を有しています。

1457年、道南12の館の一つである花沢館主の蠣崎季繁の客将で、後の松前氏の祖とされる武田信広が蝦夷(コシャマイン)の戦いを平定して蠣崎家を継ぎ、1470年頃に上ノ国天の川流域に北方日本海貿易の拠点として勝山館を築きました。

1599年、五代目慶広は姓を蠣崎から松前に改め、1678年には松前氏が上ノ国にあった檜山奉行所を江差に移し、ヒノキアスナロ(ヒバ)の伐採と植林事業を実施したのが管内の公的機関設置の始まりとなっています。1897年(明治30年)、道庁官制改正により従来の郡役所は廃止され、江差に檜山支庁が設置されました。

管内は、古くから水産業が盛んで、特に江戸時代後期から明治の中期にかけてはニシンの豊漁で賑わい、「江差の五月は江戸にもない」といわれたほど繁栄しました。また、北前船の往来も多く、遠く京都などの関西方面の文化も取り入れて発展してきました。明治中期以降は、農業も盛んとなり、農林水産業を産業の中心とする地域として、今日に至っています。

近年、漁獲量の低迷や過疎化、ポストコロナに向けた取組など、新たな課題も発生していますが、第一次産業の振興をはじめ、観光振興、保健・医療・福祉の充実、公共交通の維持など、管内7町が連携して取組を進めています。

また、奥尻町が脱炭素先行地域に選定されたほか、洋上風力発電における再エネ海域利用法上の「有望な区域」に檜山沖が指定されたことにより管内の洋上風力発電導入の気運が高まるなど、「ゼロカーボン北海道」実現に向けた取組が活発化しています。

檜山の「北海道遺産」



次の世代に引き継ぎたい有形・無形の財産の中から、北海道の豊かな自然、北海道に生きてきた人々の歴史や文化、生活、産業などの各分野から北海道民全体の宝物として74件が道民参加によって選ばれました。管内からは5件が選ばれています。

■姥大神宮渡御祭

姥大神宮渡御祭は、神輿渡御の際に、町内の山車（ヤマ）が供奉（お供）し、豊作・豊漁・無病息災を祈念して絢爛豪華に山車が巡行する祭礼です。起源はおおよそ370年前の江戸時代初期であり、今日まで引き継がれてきました。神輿に供奉する山車は13台あり、各町内が個々に保存継承しています。宵宮祭では各町内が山車に魂入れを行い、その後、下町と上町の巡行により神輿渡御に供奉します。



姥大神宮渡御祭（江差町）

■江差追分

江差追分は、「江差の五月は江戸にもない」とまで謳われたほどニシン漁で栄華を極めた時代に、本州と江差を往来していた北前船の船頭や船子（船員）たちによって伝わったとされています。唄の源流は、信州の馬子唄（木挽き唄）と言われ、江差の海の調べや花街文化、種々の民謡が混合し現在の形となり、老若男女問わず、国内外に愛好者を持ち、全国大会も開催されるなど、日本を代表する民謡です。



江差追分全国大会（江差町）

■上ノ国の中世の館

上ノ国町の夷王山中腹に広がる山城「勝山館」跡。松前藩の祖とされる武田信廣が、15世紀末に築城したと伝えられています。

発掘調査では多くの住居や出土遺物のほか、アイヌが使用した骨角器や和人墓と隣接したアイヌ墓が見つかっており、中世における和人とアイヌの共生の証として注目されています。



勝山館跡（上ノ国町）

■五稜郭と箱館戦争の遺構

箱館戦争は明治元年秋の旧幕府脱走軍の侵攻に始まり、翌年春の新政府軍の反撃により、五稜郭開城で終わりました。

戦いは道南一帯に及び、遺跡や遺構が随所に見られます。旧幕府脱走軍が上陸した鷲ノ木、蝦夷島臨時政権の根城となった五稜郭や四稜郭、猛攻を受けた福山城、開陽丸が沈没した鷗島沖、新政府軍が上陸した乙部海岸、土方歳三が戦死した一本木関門跡など、戦いのすさまじさを偲ばせます。



官軍上陸の地（乙部町）

■今金・美利河の金山遺跡

今金町の後志利別川上流域には、砂金採掘の遺跡が延長10km以上にわたって随所に見られ、地表面に生々しく残っています。また源流域には金鉱坑道跡などが残るカニカン岳金山跡があります。

これらは江戸時代前期の松前藩が行った大規模な金山開発によるものとされ、国内最大規模とされています。幕末以降にもブームが起き、特に明治期は北海道的な採掘技術を磨く場として歴史的に重要な位置を占めました。昭和前期まで使われていた伝統的な砂金掘り用具も見学することができます。



砂金採掘跡（今金町）

檜山の「日本遺産」

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけではなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

全国104件のうち、北海道内では5件認定されており、江差町のストーリーは北海道の認定第1号です。

■ストーリー「江差の五月は江戸にもないーニシンの繁栄が息づく町ー」

江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りに、切妻屋根の建物が建ち並び、暖簾・看板・壁にはその家の屋号が掲げられています。緩やかに海側へ下っている地形にあわせて蔵が段差状に連なり、海と共に生きてきた地域であることがうかがえます。

この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とその加工品の取引によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどでした。

ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く連綿と息づいています。



いにしえ街道の「旧中村家住宅」

檜山管内は、北海道の南西部、渡島半島の日本海側に位置し、渡島管内の八雲町熊石地区を挟んで飛び地状になっており、南部4町と北部2町、せたな町沖27kmにある離島の奥尻町の全7町で構成されています。

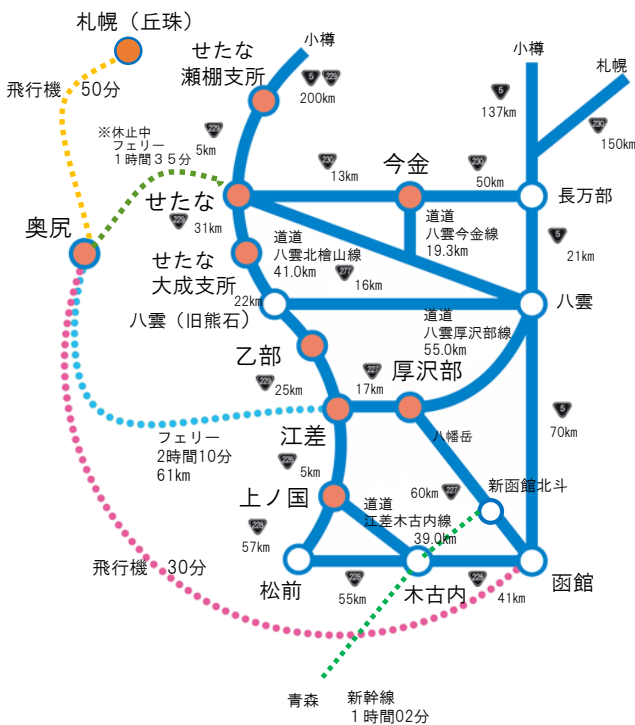
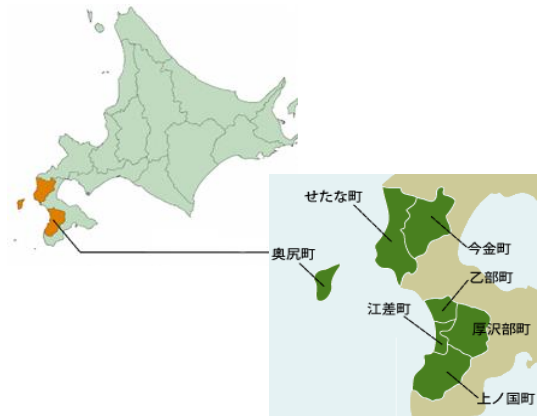
総面積は2,630km²で佐賀県よりやや大きく、全道83,423km²の3.1%で、14総合振興局・振興局の中で最も面積が小さく、唯一飛び地状となっている地域です。日本海に面しており、7町のうち5町が海岸線を有しています。海岸沿いには切り立った断崖や奇岩が連続し、夏は穏やかで澄みわたった海と、そこに沈む美しい夕日を眺めることができます。

北部には清流日本一の後志利別川、南部には厚沢部川・天の川などが流れ、その流域は肥沃な農耕地となっています。

また、素晴らしい景観をもつ「檜山」「狩場茂津多」の2つの道立自然公園（管内総面積の約10%）を有し、海・山・温泉等の自然に恵まれ、本州と北海道の樹木の植生が混じり、スギの北限、トドマツの南限となっています。

R5年1月1日現在

	檜山	北海道
面積	2,630km ²	83,421km ²
人口	3.24万人	513.99万人
高齢化率	43.9%	32.8%
平均気温	11.9℃	11.0℃
平均風速	4.9m/s (江差町)	3.3m/s (札幌市)
降雪量 (R5.1~R5.12)	179cm (江差町)	359cm (札幌市)



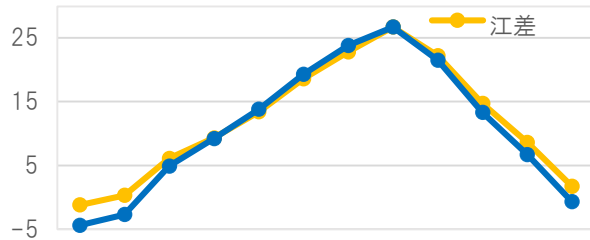
西暦	元号	事項
1189	文治5	藤原泰衡の一族、夷島上陸
1443	嘉吉3	上国寺設立(安東氏渡来)
1456	康正2	蝦夷の戦い
1457	長祿元	武田信広、蝦夷の戦い平定
1678	延宝6	江差に檜山奉行所設置
1872	明治5	開拓使函館支庁の所屬となり、江差に戸長役場を置く
1897	明治30	江差に檜山支庁を置く
1919	大正8	瀬棚村に町制施行
1932	昭和7	瀬棚線全線開通
1936	昭和11	江差線全線開通
1947	昭和22	利別村を今金町と改称し町制施行
1955	昭和30	東瀬棚村と太櫓村合併、北檜山町となる
1955	昭和30	久遠村と貝取洞村合併、大成村となる
1962	昭和37	熊石村に町制施行
1963	昭和38	厚沢部村に町制施行
1965	昭和40	乙部村に町制施行
1966	昭和41	奥尻村に町制施行
1966	昭和41	大成村に町制施行
1967	昭和42	上ノ国村に町制施行
1967	昭和42	江差・奥尻間フェリー就航
1974	昭和49	奥尻・函館間の航空路開設
1977	昭和52	瀬棚・奥尻間フェリー就航
1993	平成5	北海道南西沖地震による震災
2005	平成17	大成町、瀬棚町、北檜山町合併、せたな町となる 熊石町と渡島支庁管内八雲町合併、二海郡八雲町となる
2010	平成22	檜山支庁から檜山振興局へ名称変更 北海道総合振興局及び振興局の設置に関する条例施行
2014	平成26	江差線(木古内・江差間)廃止
2016	平成28	北海道新幹線開業 新青森~新函館北斗間
2019	平成31	奥尻・瀬棚間フェリー休止
2021	令和3	奥尻・丘珠間航空路就航

数字で見る檜山

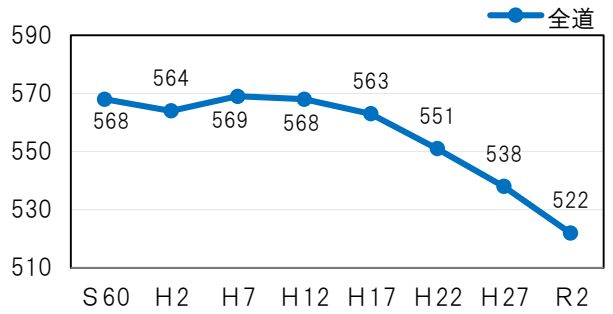
hiyama2024

●月別平均気温（℃）

●：気象庁 令和5年、○：国勢調査 令和2年

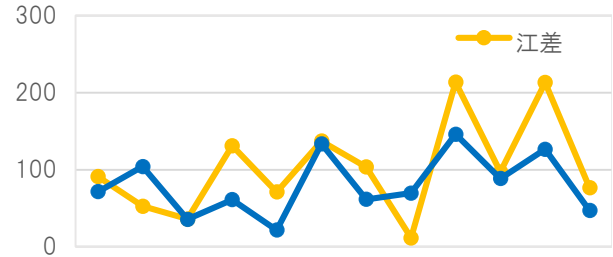
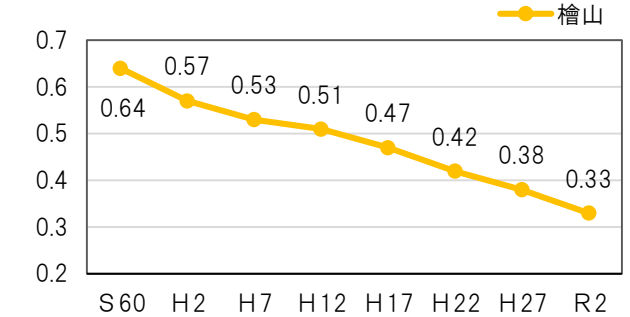


○人口推移（万人）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
江差	-1.2	0.3	6.1	9.3	13.4	18.6	22.8	26.7	22.2	14.7	8.6	1.7
札幌	-4.4	-2.7	4.9	9.2	13.8	19.3	23.8	26.7	21.5	13.3	6.7	-0.7

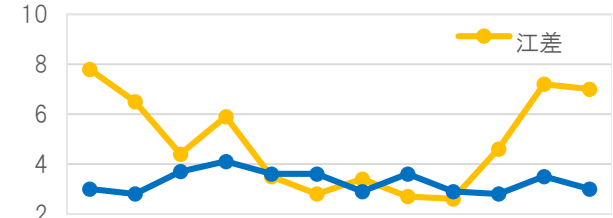
●月別降水量（mm）



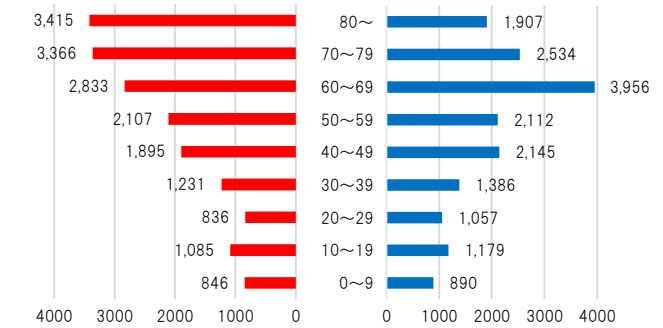
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
江差	91.0	52.5	36.0	131.0	71.0	137.0	103.5	11.5	213.5	97.0	213.0	76.5
札幌	71.5	104.0	35.5	61.0	21.5	133.5	61.5	69.5	146.0	88.5	126.5	47.0

●月別平均風速（m/s）

○檜山 男女・年齢別人口（人）



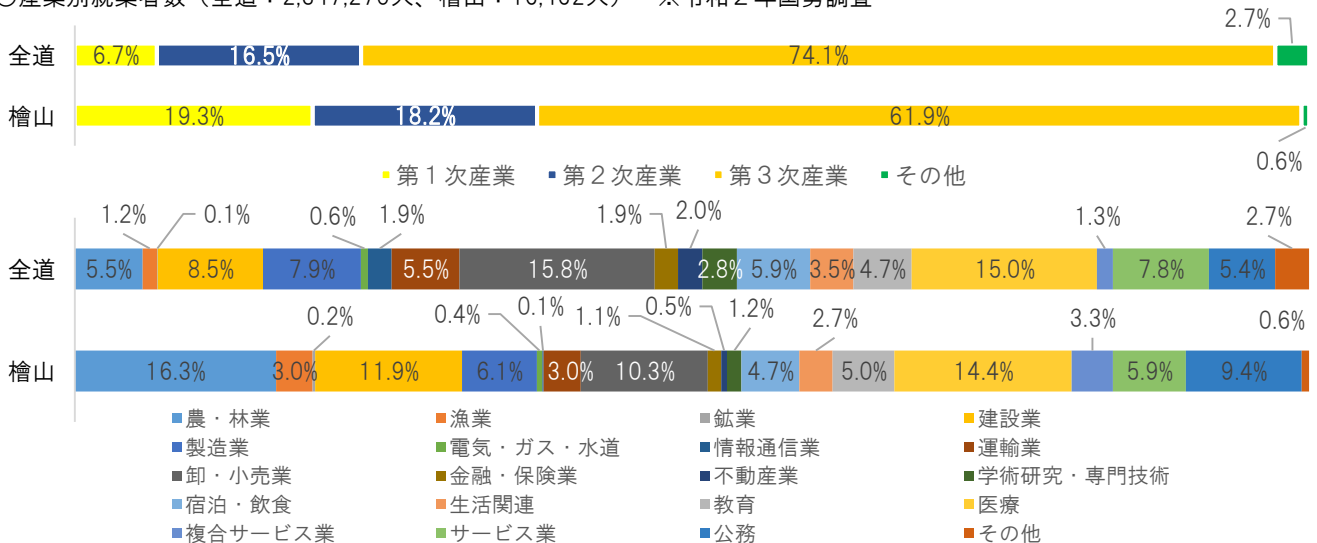
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
江差	7.8	6.5	4.4	5.9	3.5	2.8	3.4	2.7	2.6	4.6	7.2	7.0
札幌	3.0	2.8	3.7	4.1	3.6	3.6	2.9	3.6	2.9	2.8	3.5	3.0



女性17,614人+男性17,166人
=34,780人

○産業別就業者数（全道：2,347,270人、檜山：16,462人）

※令和2年国勢調査



- ・全道と比較すると、第一次産業の割合が高い一方、第三次産業の割合は低くなっている。
- ・業種別で見ると、全道に比べ農林漁業、公務、建設業の割合が高く、製造業、卸・小売業、サービス業の割合が低い。